日刊 CARGO 物流総合紙
Daily CARGO Transport & Logistics News

2012年（平成24年）
7月12日
木曜日
第10458号
月曜～金曜発行（祝日を除く）
購読料：1カ月8,400円（税込）
（昭和44年9月30日 第三種郵便物認可）
http://www.daily-cargo.com/

発行所：株式会社海事プレス社
本　社：東京都千代田区岩本町2-1-15 吉安神田ビル3階
TEL03-5835-4162（代表） FAX03-5835-4160
関西支局：大阪府大阪市西区京町堀1-17-8 京ビル5階
TEL06-6441-9800 FAX06-6441-9801
横浜支局：神奈川県横浜市中区太田町6-87 横浜フコク生命ビル8階
TEL045-681-7832 FAX045-681-7833
上海支局：上海市長寧区婁山関路85号 東方国際大厦A棟1304室
TEL+86-21-6211-8891 FAX+86-21-6211-8892
http://www.kaiji-press.co.jp
©海事プレス社2012 禁無断転載

ULD5枚積載車を開発

平野ロジスティクス
成田―羽田OLTに投入

平野ロジスティクス（本社・神戸市、田中英治社長）は、96インチパレット仕様のユニット・ロード・ディバイス（ULD）を5枚積載できるフルトレーラー車「＋2」（プラス・ツー）を開発し、8月に本格投入する計画だ。従来のトラックは3枚積みがメーンだが、これよりも2枚多い（＋2）仕様とすることで、物流を効率化する。ULDを5枚積載できる輸送車両は業界で初めて。品質やコスト、環境対応の観点からのメリットを同時に実現する。平野ロジスティクスは「＋2」を成田と羽田間の保税転送（OLT）サービスに投入する計画。12日には成田空港、13日には羽田空港でテスト運行が予定されている。関東支店の益子研一支店長は「成田と羽田の一体運用の橋渡し役を担い、両空港の活性化に貢献したい」と話す。

ULDを5枚積載できるフルトレーラー車「＋2」

益子研一支店長

来月から、両空港活性化に貢献

新たに開発したフルトレーラー車は、ドライバーの寝台部を頭上に配置することで、トラックのキャブの長さを圧縮。トラックの荷台部分で、96インチパレット3枚分に相当する約9・6メートル（3・2メートル×3）を確保するとともに、トレーラーの荷台部分でパレット2枚分の約6・4メートル（3・2メートル×2）を確保。これを連結することで、車両基準（19メートル未満）を満たした上で、パレット5枚積みを可能とした。トラックとトラクターの間でパレットを移動させることができる。

平野ロジスティクスによると、トレーラー荷台部分の長さが6・4メートルというのは、フルトレーラー車としては、航空貨物業界のトラックだけではなく、日本でも初めての長さとなる。

エアサスペンション車両であるため、振動に敏感な精密機械などの輸送にも対応。左ミラー部、トラックの後部、トレーラーの後部にカメラを装備して死角をなくすなど、安全面にも配慮している。

開発費用は、10トンローラーベット車2台分。開発、製作に当たっては、構想・設計に1年、製作に1年の合計2年間を費やした。実用新案を申請中だ。

平野ロジスティクスは今月中のテスト運行を経て、8月1日をめどに本格運用を開始する。成田と羽田間のOLTに投入し、通常よりもパレットを2枚多く積載できる強みを生かして、両空港間のOLTを効率化する。益子支店長は「OLTの効率化で、いわば空港間の距離短縮につなげ、両空港の一体運用に貢献したい」と話す。

さらに平野ロジスティクスは「＋2」に続いて、パレット4枚を積載できるセミトレーラー車「＋1」を開発しており、9月に納車の予定だ。「＋2」は特大車に区分される一方、現在開発中の「＋1」は大型車の区分。「＋1」の高速道路の通行料金は、既存の大型車と同額となる。成田と中部・関西・福岡各空港間といった、高速道路の利用距離が長い輸送に「＋1」を投入する計画だ。

平野ロジスティクスの設立は1962年で、今年が創業50周年。96インチパレット対応車両を開発して30年になる。今後、トレーラーの有効活用による物流効率化、物流改革も提案する方針。

益子支店長は「航空業界では、A380型やB787型など、新機材の開発が進んでいる。OLTや長距離の陸上輸送で活用するトラックやトレーラーの分野でも、物流効率化、環境対応などの観点からも新型車両の開発がより重要性を増す。OLT事業のリーディングカンパニーとして、物流効率化を図ることで航空貨物業界に貢献したい」としている。

マースク
来月に運賃再修復
日・アジア発欧州向け

マースクラインは11日、日本も含むアジア発欧州・地中海向け貨物を対象に8月1日付で運賃修復を実施すると発表した。修復額は250ドル／FEU、500ドル／TEUで黒海や北アフリカ向け貨物も対象となる。8月以降の欧州向け貨物の運賃修復では、既にハパックロイドが日本を除くアジア出しで運賃修復およびPSS（ピーク・シーズン・サーチャージ）課徴の方針を明らかにしている。マースクが同様の方針を打ち出したことで、再び運賃修復の機運が高まりそうだ。

アジア発欧州向け貨物では、7月1日付で運賃の値上げが実現したばかり。ただ、船社側の航路収支は改善したとは言え、なお黒字化が定着していないことから、8月以降も運賃修復の実施が見込まれている。先週、ハパックロイドは8月から9月末にかけてアジア発欧州向け貨物を対象に350ドル／TEUのPSS課徴のほか、さらに8月15日付で250ドル／TEUの運賃修復も実施する方針を明らかにしている。

増資で最大238億円調達
川崎汽船

川崎汽船は10日、2日に発表した新株式の発行と同社株式の売り出しに関し、発行価格と売出価格を決定したと発表した。

公募による新株発行価格は、算定基準日7月10日の株価129円に3・1％のディスカウント率を適用し、1株当たり125円に決定。この結果、公募増資と第三者割当増資による手取概算額合計上限は238億1900万円となり、当初の見通しから47億9100万円減少する。

今回の増資による調達資金は、2013年3月期末までに全額をドライバルク船、自動車船などの不定期専用船を主とした設備投資資金に充当する。

川崎汽船は今回の増資と合わせて、劣後特約付きローンを通じて300億円の借り入れを実施することも発表しており、船舶建造・買取資金の一部や有利子負債の返済に充当する予定。

この人に聞く

――6月には、マレーシアで海外初の自社倉庫「クリムロジスティクスセンター」が本格稼働した。

――マレーシア以外で、自社倉庫を持つ予定はあるか。

今泉 将来的にはあるかもしれないが、当面はない。やはり基本的には三菱倉庫の拠点を利用することになるだろう。三菱倉庫も中国

できた。今回、さまざまな要素を勘案して自社倉庫という形で設置したが、三菱倉庫にも出資を含めて相際一貫輸送や現地での保管・配送といった業務に取り組んでいきたい。

――新倉庫の特徴と、今後の案件受託の見通しは。

今泉 倉庫の面積は7500平方メートルほどで、規模的にそこまで大きいというわ極的に増やしていきたい。営業面では、三菱倉庫のマレーシア法人とも連携する。

また、新倉庫には自前の倉庫管理システム（WMS）を導入しているほか、現在開発を進めているグローバル物流サービス拠点」に位置づけている。

今泉 航空・海上輸送だけでなく、トラックによる域内の陸上輸送サービスの拠点としても利用していく。現在も、シンガポールとマレーシアの間では陸送いという引き合いを頂いている。これも三菱倉庫の施設を使う前提で、案件受託に向けて具体的に取り組んでいる。当社は米国に現地法人を持たないが、三菱倉庫が2社の現地法人を持っており、十分に対応が可能

きょうの紙面

2面 日本通運と三井物産 羽田にエバー貨物便誘致
3面 日本発アジア向け 運賃じわり底上げ
4面 CARGOリポート インターフェックス 過去最多の1177社が出展
6面 ペガサス 国際宅配便、順豊と提携

成田空港出国ピーク
携推進へ、